

第7章 勝山市の基盤となっている各地区の地域力向上プロジェクト

人口減少や日常生活圏の拡大に対応した集落などの基礎的コミュニティおよびその集合体となる市内10地区の活性化ならびにこれらの基盤となる公共施設の再編を進めることで、長期的展望に立った持続可能なまちの実現を目指します。

次の5つの政策を推進していくことで、「勝山市の基盤となった各地区の地域力の向上」を目指します。

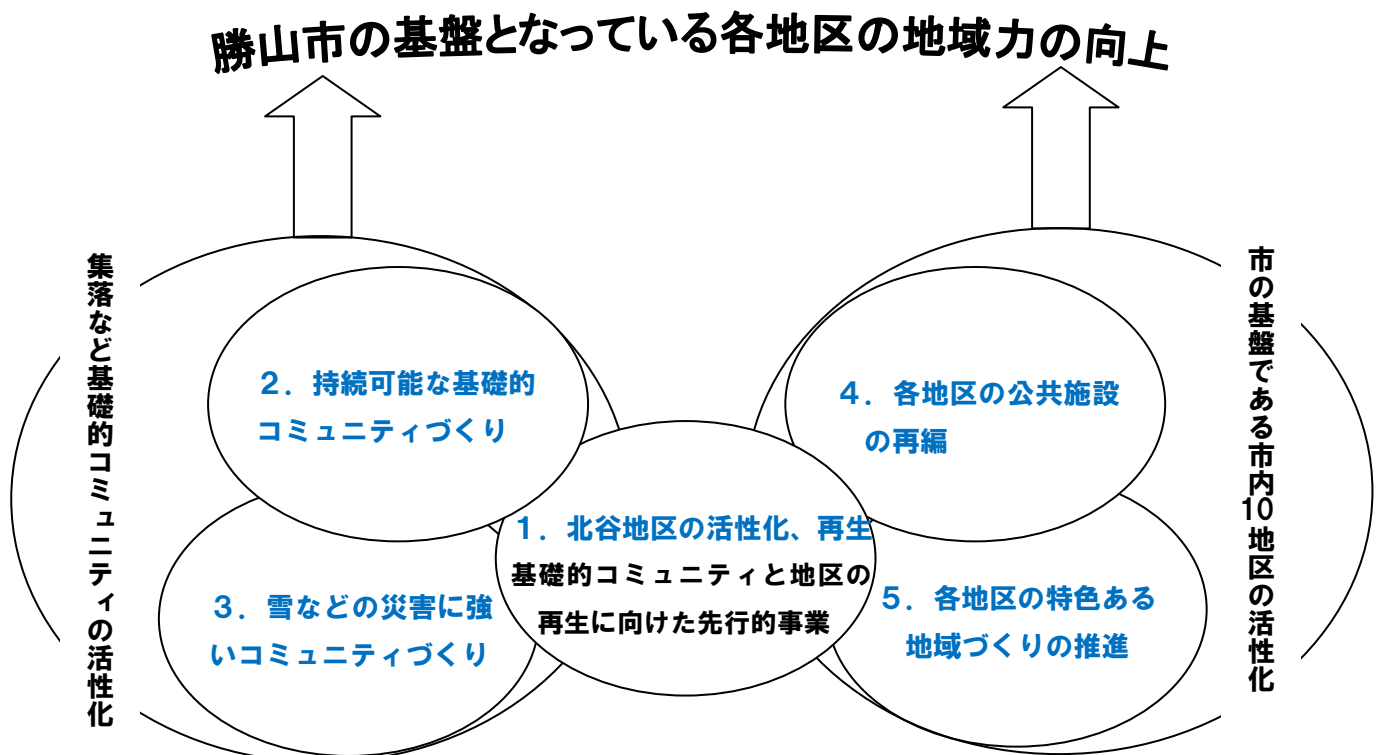
1. 北谷地区の活性化、再生
2. 持続可能な基礎的コミュニティづくり
3. 雪などの災害に強いコミュニティづくり
4. 各地区の公共施設の再編
5. 各地区の特色ある地域づくりの推進

まず先行して市内で最も過疎化が進んでいる「北谷地区の活性化、再生」に取り組みます。この取り組みをモデルとして、市の基盤である市内10地区の活性化と集落など基礎的コミュニティの活性化を一体的に目指していきます。

勝山市の基盤となっている市内10地区の活性化に向けては、その歴史的な枠組みや公民館活動を中心として培ってきた自主性を尊重しつつ、各地区の公共施設の再編や地域が主体的に取り組んでいく「地域づくりの視点」を支援していきます。

集落などの基礎的コミュニティの活性化に向けては、集落などに伝わる伝統文化の継承と雪などあらゆる災害に強い基礎的コミュニティに向けた地域力向上を支援していきます。

勝山市の基盤となっている各地区の地域力向上を目指し、課題を整理し、ひとつのプロジェクトとして取り組んでいくものです。



1. 北谷地区の活性化、再生

■基本方針

豊かな自然遺産や歴史遺産に恵まれ市内最大の面積を有する北谷地区では、鯖の熟れ鮓の商品化、恐竜化石発掘地周辺整備、小原地区の古民家再生など、新たな活性化の芽が花開きつつあります。

一方で厳しい自然環境や社会経済環境の変化を受け、生活の場としての活力が失われつつあります。

これを踏まえ北谷地区の住民や関係者が主体となり、行政がこれを支援し、いつまでも安心して暮らせ、次世代が生まれ育つことができる地区全体の再生を目指し、北谷地区の活性化、再生を図ります。

この北谷地区の活性化、再生の取り組みを「勝山市の基盤となっている各地区の地域力向上プロジェクト」全体のモデル事業としても位置づけ、平成27年度までの前半5か年に他の地区に先行して集中的に進めます。

■重点項目

<生活環境の整備>

- ・総合的な克雪対策
- ・合併浄化槽整備支援
- ・鳥獣害対策の充実
- ・その他の生活支援

<各集落の活性化、再生>

- ・空き家対策（景観面および安全面）
- ・情報化の推進（高速インターネット網の活用）
- ・集落の共有施設の管理への支援
- ・伝統文化の次世代への継承への支援
- ・集落ぐるみでの農家民宿に対する支援
- ・それぞれの集落の特性を活かした支援
- ・集落の連携等を視野に入れた新しい行政区の枠組みづくり

<北谷地区全体の活性化、再生>

- ・超高齢社会に対応した新しい移動手段の整備
- ・地区の中核となる（仮称）コミュニティセンターの設置
- ・地域が主体となったコミュニティビジネスへの支援

<地域資源を活かしたまちづくり>

- ・「恐竜溪谷」のルート整備、恐竜クロカンマラソンコースとしての活用
- ・恐竜化石発掘現場の保存活用
- ・利雪、親雪の推進
- ・白山禅定道の整備、活用
- ・恵まれた自然遺産を活かしたまちづくりの推進
- ・東山いこいの森施設の活性化

- ・かつやま子どもの村小中学校との連携
 - ・特別養護老人施設「さくら荘」との連携
- <北谷地区の活性化、再生計画（仮称）>
- ・地区住民が主体となった活性化、再生計画の策定支援

2. 持続可能な基礎的コミュニティづくり

■基本方針

少子高齢化により市内のほとんどの地域で人口構成の変化と人口減少が進んだ結果、長年にわたり各区（集落など）が担ってきた共助機能が弱体化しつつあります。

共助機能を維持、強化し、地域力を向上するため、勝山地区を中心とする市街地と周辺の中山間地域それぞれの特質や規模に合わせた政策の推進により、相互の連携を進めるほか、行政単位としてのあり方について地域と協議していきます。

これらの取組みにより、共助機能がじゅうぶん発揮できる枠組みを実現することで、共有施設の維持や伝統文化の継承など幅広い分野で地域力の向上を図っていきます。

さらには、若者や女性の地域活動等における意思決定過程への参画を支援してきます。

■重点項目

- ・集落など区の連携等を視野に入れた新しい行政区の枠組みづくり
- ・中心市街地と中山間地域それぞれの地域の規模に応じた柔軟な施策の推進
- ・集落など区に伝わる伝統文化の継承に向けた支援
- ・集落など区が主体的に行う共同作業や共有施設の維持に対する支援
- ・集落など区の意思決定過程へ若者や女性の意見を反映するための支援

3. 雪などの災害に強いコミュニティづくり

■基本方針

勝山市は、冬期における安心や安全の確保に向け、これまでもさまざまな雪対策事業に取り組んできましたが、「第5次勝山市総合計画策定のための市民アンケート」の結果によると多くの市民が雪対策の充実を勝山市における最重要課題と考えています。

市では、克雪に向けて迅速で的確な道路除排雪体制の一層の充実を図ります。

また、少子高齢化により、これまで家族により行ってきた屋根雪や敷地内の除雪作業が難しくなっています。さらにコミュニティが担ってきた共助による除雪作業についても困難になりつつあります。

こうした状況を踏まえ、市外在住の親族と連携した高齢者世帯などに対する支援、自主的な共助による克雪に対する支援などを行っていきます。

こうした地域ぐるみでの雪対策や、日常の高齢者の見守りなどを進めることで地域力の向上を図り、あらゆる災害に即応できる地域防災力全般の強化を目指します。

■重点項目

＜公助による道路除排雪体制の確立＞

- ・国、県、民間事業者との連携による効率的な道路除雪
- ・冬期間における歩行者等の安全確保
- ・狭い道路の除排雪による生活道路の確保
- ・通勤通学道路の除排雪
- ・流雪溝の整備
- ・流雪用水量の確保

＜共助による除雪に対する支援＞

- ・地域ぐるみでの高齢者見守りや除雪の推進
- ・集落等に対する除雪機械の助成

＜自助による除雪に対する支援＞

- ・屋根融雪への支援
- ・高齢者世帯等の除雪に対する支援

＜勝山市総合克雪、利雪、親雪計画（仮称）＞

- ・市内全域の道路除雪体制再構築を核に、公助、共助、自助の連携による総合的な除雪計画の作成

＜災害に強い地域づくり＞

- ・自主的な地域防災組織の設立、支援
- ・災害時における市民への情報伝達の徹底
- ・各地区の中核となる地域防災拠点の整備
- ・冬期における生活支援（買い物、移動等）

4. 各地区の公共施設の再編

■基本方針

基礎的コミュニティやその集合体である市内10地区の生活の基盤となってきた公共施設について、少子高齢化や社会経済環境の変化に対応して再編を進めていきます。

いつまでも住み続けたいまち、いつかは帰ってきたくなるまちを目指して、地区との合意形成を前提として、地域の活力を維持できる公共施設の配置を実現していきます。

また、各地区の公共施設の再編に合わせて、新たな地域交通システムの構築に向けて研究を進めます。

■重点項目

＜新たな地域中核施設＞

- ・地域の新たな中核施設として複合的な機能を備えた（仮称）コミュニティセンターの整備について検討します。

＜小学校＞

- ・それぞれの地域の意思を十分に尊重することを基本とし、地域との議論を重ねて合

意を得られた地域については再編を実施していきます。

＜中学校＞

- ・現在の3校を同時期に1校に集約する案と、3校を暫定的に2校に集約する段階的再編案の両案について検討し、方向性を確定していきます。地域力の向上により出生数が増加に転じたときは2校存続も検討します。

＜体育施設＞

- ・平成30年開催の福井国体に向け、生涯スポーツ振興や健康増進機能を備えた新体育館の建設を目指します。
- ・新体育館建設に合わせ既存の体育施設の再配置、再整備を図ります。

＜幼稚園、保育園＞

- ・幼稚園と保育園の一元化へ向けた国の新たな制度に対応し、より利用しやすい体制を目指します。

＜新たな地域交通システム＞

- ・少子化に伴う公共施設の再編や超高齢社会に対応した、高齢者など交通弱者の移動手段の確保に向けた新たな地域交通システムの構築を目指します。

5. 各地区の特色ある地域づくりの推進

■基本方針

各地区の「地域づくりの視点」は、地区座談会や全市民アンケートでの地域の声をもとに、現在の勝山市の基盤となっている市内10地区の現状や課題を踏まえ、各地区がこれまで培ってきた固有の伝統、文化を保存、継承しつつ、新しい時代に対応した地域づくりに向けた取り組みの指針とするものです。

特に地域住民が主体的に取り組む課題については、その主体的な活動を行政がバックアップしていく仕組みをつくり、勝山市の基盤となっている各地区の地域力の向上を図ります。

■重点項目

＜各地区の主体的な地域づくり事業（仮称）＞

- ・「地域づくりの視点」に向けて地区全体が主体的に取り組む事業に対する支援の事業化

■地区ごとの「地域づくりの視点」

＜勝山地区＞

城下町の面影を残す歴史的な町並みの風情と伝統文化が受け継がれている中心市街地を有する勝山地区は、まちづくり交付金事業の実施などにより、まちなか再生、活性化への基盤整備は整いつつあります。まちなか誘客の拠点施設として平成21年にオープンした「はたや記念館 ゆめおーれ勝山」周辺のさらなる整備、充実を図るとともに、商業集積地区として形成・発展してきたまちのエッセンスを活かしながら、市民の力によるソフト面の取り組みを支援することで、市民生活、観光両面において市内

外から人が集まるにぎわい空間の創出を目指します。

- ・まちなか誘客の促進とにぎわい空間の創出
- ・商業集積地区として形成、発展してきたまちのエッセンスを活かした再生、活性化
- ・勝山城下町の面影を残す歴史的な町並みの風情と左義長をはじめとする伝統文化の保存、継承

<猪野瀬地区>

水菜やメロン、サトイモなど勝山市を代表する特産品づくりが盛んで、かつ優良企業が立地する工業団地を有する猪野瀬地区は、近隣地区への大型量販店進出や街路、公園整備等により住宅街としての基盤整備が進み、人口増加のきざしも見られます。このような良質な居住環境を維持、レベルアップするとともに、中京方面から中心市街地への玄関口という立地条件を活かして、越前大仏門前町や勝山城博物館などの観光施設と特産品を活用した農商観連携による地域活性化を図ります。

- ・勝山市を代表する特産品（水菜、メロン、サトイモなど）の振興
- ・生活利便性の高い居住環境の維持、充実
- ・越前大仏門前町や勝山城博物館などの観光施設、特産品を活用した農商観連携による地域づくり

<平泉寺地区>

豊かな自然景観と田園風景に恵まれ、「国史跡白山平泉寺旧境内」を有する平泉寺地区では、白山平泉寺旧境内の総合整備事業により、継続して発掘調査に取り組んでいるほか、ガイドンス施設の建設、史跡公園化、見学路整備など歴史的景観に配慮した整備を進めています。この全国に誇れる歴史遺産をはじめ、法恩寺山、経ヶ岳一帯の豊かで多様な地質・地形遺産などの整備、活用と、これらの遺産の保存、保全、住民の居住環境との調和に十分配慮しながら、平泉寺地区の魅力を県内外へ情報発信し、また訪れる人々にその魅力が伝わる環境づくりを進めます。

- ・国史跡白山平泉寺旧境内に代表される歴史遺産、ジオパークに関連する地質・地形遺産等の整備、活用による地域活性化および居住環境整備との調和
- ・豊かな自然景観、田園風景の保全、活用
- ・特色ある農業（酪農、有機農法等）の振興

<村岡地区>

村岡地区は、福祉健康センター「すこやか」、総合病院、消防署、警察署など市民の暮らしを支える公共施設が立地し、滝波川、浄土寺川、暮見川にみられる豊かな水辺環境や長尾山、村岡山などの里山環境にも恵まれています。加えて、福井県立恐竜博物館、かつやま恐竜の森など全国に誇れるすぐれた観光資源を有し、県内外から毎年多くの観光客が訪れています。そのため、これらの地域資源、観光資源の一層の活用を図り地域経済活性化に資するため、恐竜博物館のあるかつやま恐竜の森一帯の整備

を推進するとともに、恐竜化石発掘地など他地区の地域資源との連携を進め、周遊・滞在型観光の拠点地区としての振興を図ります。

- ・すぐれた観光資源の一層の充実、有機的ネットワーク化による周遊・滞在型観光の拠点地区としての地域づくり
- ・福祉健康センター「すこやか」、総合病院、消防署、警察署などの公共施設等が立地する生活利便性が高い居住環境を活かした地域づくり
- ・水辺、里山環境の保全・活用

<北谷地区>

一向一揆の際に重要な役割を果たした「七山家（ななやまが）」、白山麓白峰地域との行き来により、古くから重要な役割を担った歴史を持つ集落が集まる北谷地区は、豪雪などの厳しい自然環境や社会、経済状況の変化などにより人口流出が続いた結果、次世代を育むための生活の場としての機能、活力が損なわれてきました。しかし、一方で、エコミュージアムの推進による鯖の熟れ鮓の商品化、伝統芸能の復活、小原地区の古民家再生、恐竜、恐竜化石をメインテーマとした「恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク」の日本ジオパーク認定など、新たな活性化の芽が膨らんできています。そのため、地区住民と行政との協働により、これらの地域遺産を最大限に活かしながら、誰もが安全に安心して暮らせ、次世代を育むことができる持続可能なまち、コミュニティとしての再生・活性化に特に重点的に取り組みます。

- ・住民が安全・安心に暮らせる生活環境の整備、充実
- ・基礎的コミュニティ（集落）の活性化、再生～北谷地区全体の活性化、再生の早期実現
- ・日本一の恐竜化石発掘地周辺の整備・活用、エコミュージアムで生まれ育った地域遺産の整備・活用による地域活性化

<野向地区>

大日山（越前甲）の雄大な自然景観と高尾山をはじめとする里山のふもとに田園風景が広がる豊かな農村集落が形成され、その間を国道416号、県道栃神谷・鳴鹿・森田線の景観に配慮された主要道路が整備されている野向地区では、エコミュージアムの推進によるエゴマの生産・販売、休耕田を利用したコスモス畑、体験農業など、豊かな自然環境を活用した特色ある地域農業が展開されています。そのため、人々の心の拠り所となる「蓮如の里」としての農村集落の魅力と、市街地に隣接し、近隣に新たな商業ゾーンを有するなどの地理的好条件の両面を活かした定住人口の増加を図ります。

- ・特色ある地域農業の振興
- ・国道416号など主要道路の整備促進による地域づくり
- ・自然環境に恵まれた農村の魅力と市街地に隣接している利便性を活かした定住人口の増加への取り組み

<荒土地区>

国道416号など幹線道路から見られる白山連峰のパノラマと目の前に広がる田園風景が見事に調和した自然景観が美しい荒土地区は、農業生産基盤の整備による農業の振興、特産品の開発などが地域住民の活力によって積極的に進められています。また、近年では大規模商業施設が集積した新たな商業ゾーンの形成と新たな住宅地整備、公園整備などの基盤整備が進んでいます。さらには、現在整備計画が進む勝山インター線の架橋整備により市街地の玄関口として交通の要所になることが期待されます。そのため、特産品および農産物の地域ブランドの開発、販売推進により地域活力をさらに高めるとともに、自然景観に配慮した新たな商業集積地としての基盤整備を活かした産業振興、雇用創出などに取り組みます。

- ・福井市、坂井市方面からの幹線道路、勝山インター線整備などによる市街地、主要観光地への玄関口となる立地環境の活用
- ・新たな商業ゾーンの発展にともなう経済活動活性化と定住人口増加
- ・特産品および農産物の地域ブランドの開発・販売推進による地域活力の創出

<北郷地区>

九頭竜川や岩屋川などの豊かな水辺環境を有し、幹線道路からの田園風景と白山連峰の眺望が美しい北郷地区は、本市の西に位置し、福井市中心部から車で20～30分という時間距離にあります。そのため、福井市、坂井市に近いという立地条件を活かして、地域住民が快適に暮らせる居住環境のさらなる整備、充実を図っていきます。

また、平成22年に国の重要文化財に指定された旧木下家住宅の整備、活用を核に、岩屋観音、畑ヶ塚、岩屋オートキャンプ場などの周辺観光資源との連携による観光振興、地域活性化を目指します。

- ・国の重要文化財「旧木下家住宅」を核とし周辺観光資源の連携による観光振興、地域活性化
- ・福井市、坂井市に近い地理的条件を活かした居住環境の整備、充実
- ・九頭竜川や岩屋川などの水辺環境の整備、活用

<鹿谷地区>

平成21年に供用開始された中部縦貫自動車道の勝山インターチェンジ、えちぜん鉄道の各駅が位置する鹿谷地区は、本市の交通体系の充実、県内外からのアクセス向上を図るうえで重要な地区です。また、昔ながらの農村文化が地域の人々によって引き継がれ今も息づいています。そのため、都市計画に基づき、周辺の里山や九頭竜川の豊かで美しい自然、住民の居住環境や集落景観に害を及ぼすような乱開発を未然に抑制しながら、高速交通拠点としてのメリットを最大限に活かした地域活性化を目指します。

- ・中部縦貫自動車道の高速交通拠点としてのメリットを活かした地域振興
- ・里山、九頭竜川などの自然景観、アユなど水産資源の保全、活用
- ・古くから地域に伝わる農村文化・産業の保護、継承

<遅羽地区>

まちづくり交付金事業などによって、えちぜん鉄道勝山駅と駅前広場が大きく生まれ変わる遅羽地区は、本市の鉄道による中心市街地への玄関口です。駅舎の改修やロータリー広場の整備、駅西公園の整備、「テキ6」の動態保存などによって、市民の利便性の向上はもちろん、観光客に対する案内機能や市内主要箇所、観光施設への交通アクセスの起点としての機能が高まるほか、駅自体への集客力も期待されます。

そのため、駅周辺をメインに国内有数の縄文遺跡として知られる三室遺跡や、カタクリの花が咲き誇るバンビライン、九頭竜川の水辺環境などを有機的に結び付けて地区全体の活性化を図ります。

- ・えちぜん鉄道勝山駅の地域交通の結束点としての充実、強化
- ・大正時代の雰囲気を残す国登録文化財えちぜん鉄道の駅舎および周辺施設と三室遺跡など周辺の地域資源との連携による地域づくり
- ・九頭竜川の美しい水辺環境の保全、活用